

3月16日、JR東日本（会社）は各単組に対して、2018春闘に関する回答を行った。内容は、定期昇給の完全実施に加え、ベースアップについては「基本給に0.25%を乗じた額を加える」という内容であった。その他、初任給の改訂（直近5年の入社社員を対象とするもの）等も行うとのこと。JR連合は加盟単組であるジェイアール・イーストユニオンより、この間の交渉経過を踏まえ妥結したとの報告を得た。

そして、JR東労組も「業務速報 No.73（3月16日付）」で、「申15号 2018年度賃金引き上げ妥結！」なる見だしで、早々に妥結したことを報じた。

JR東労組が求めていたのは「一律定額ベア」だが・・・

「一律定額ベア」ではなく「定率ベア」で即妥結！

‘重要な論点’は隠蔽、組合員をダマすとは・・・世紀の詐欺行為だ

ベースアップ（ベア）の方式としての「一律定額方式」は、JR東労組がもっとも強くこだわってきた点である。すなわち、JR東労組は、ベア方式について、等級の上昇（昇格）に応じて所定昇給額も大きくなるという現行制度（賃金カーブ）に沿う形をとれば、賃金カーブの上位にいるものほど「上げ幅」が大きくなるという点を「格差を拡大する制度」と問題視してきた。そして「所定昇給額を算出基礎とする」ベア方式を“格差ベア”と称し、“格差ベア”を永久に根絶することが、スト権の確立・行使の目的そのものとしていたのに・・・。

完全な“格差ベア”回答に諸手をあげて自画自賛！？

よく見て！「定額」ではなく「定率」なんですが・・・

この度、会社が行った回答内容で、全社員が対象となるベースアップに関する部分は、「平成30年4月1日現在の基本給に0.25%を乗じた額を加える」というものだ。すなわち、職責、職能、資格・等級、年齢等を加味した‘賃金カーブ’に沿う形で、ベースアップ額にも必然的に「差」が生じるものである。JR東労組が‘職場からのあらゆる戦術行使を背景にたたかい抜き’、勝ち取った‘大きな成果’とは、“格差ベア”そのものであると言える。

ところが、JR東労組は「所定昇給額を算出基礎にしないベースアップをちとる！」と記している。この完全な“格差ベア”回答に対し、諸手をあげて容認し、即日妥結したのだ。地本によっては“格差ベア粉碎！！”などと吠えている。組合員をバカにするにも程がある。開いた口がふさがらない・・・。